

ものづくり文化再発見!

# ウォーキング

## 蟹江コースマップ

# 酒蔵、鉢花、漬物…。 地場産品の現場と 歴史&街道遺産

11/24<sup>2012年</sup>  
(土)

(JR関西線蟹江駅  
～JR関西線蟹江駅  
約10kmコース)



■主催:「ものづくり文化再発見!ウォーキング」実行委員会  
愛知県、名古屋市、名古屋市商工会議所、(社)日本観光振興協会中部支部、  
(社)愛知県観光協会、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、  
(株)エイ・ワークス 等

■共催:中日新聞社、(社)日本ウォーキング協会  
■協力:中部産業遺産研究会、産業考古学会、蟹江町観光協会、蟹江町商工会  
■協賛: **KIRIN** **伊藤園** **Pasco**



ポインセチアが  
最盛期!

**6** フラワーガーデン戸谷  
説明タイム…9:50～11:00の間、随時受付  
買物ができます。購入した品は11:30に  
蟹江駅まで配送することが可能です。

**7** 佐屋川釣堀  
通過ポイント

**8** 足湯かにえの郷  
どなたでも利用できます(無料)  
10:00～20:00

ゴール受付 ●JR関西線蟹江駅…11:30～14:30まで

🚿 お手洗い 🛍️ お買物スポット

# ものづくり文化再発見!

# ウォーキング

## 蟹江コースマップ

## ものづくりの原点に触れてみよう!

このコースでは蟹江町にあるさまざまな産業文化財をウォーキングしながら巡ります。

知的好奇心を満たし、ものづくり文化の価値の認識と理解を深めながら健康増進を図ることを目的とした企画です。

ものづくりの原点に、もう一度触れてみませんか!

## 産業文化財を見て歩く。これも手軽な「産業観光」の愉しみのひとつ。

### 酒蔵、鉢花、漬物…。地場産品の現場と歴史&街道遺産

水郷として知られる蟹江町。伊勢湾台風被害から立上がった「鉢花」から、伝統の「みりん」「漬物」など

地場産品を探訪し、「伝 信長街道」も歩いて歴史遺産を巡ります。

### 1 『伝 信長街道』

若き信長(19歳といわれる)が清洲攻めの時に行軍した道と伝わる街道。蟹江城に通じる重要な経路でもあり、鎧兜を身を固めた武将たちが早馬で通過していったと想像される昔ながらの道。須成祭の稚児行列では、最後に善敬寺からこの街道を通り、公民館で解散となる。



### 2 木曾義仲ゆかりの『龍照院』

「蟹江山常楽寺龍照院」は真言宗智山派、本尊の十一面観音は国の重要文化財。天平5(733)年に行基が草創。寿永元(1182)年、木曾義仲の再興とされ、最盛期は七堂伽藍と18坊があったと伝わる。境内には、木曾義仲の菩提を弔ったという巴御前ゆかりの大日堂や、太閤秀吉お手植えの大銀杏がある。



### 須成祭

富吉建速神社・八劍社、両社の例祭で、400年あまりの伝統を持つとされる。8月初旬の宵祭では一年の日数をあらかず半球形の巻藁提灯で飾られた巻藁舟が、朝祭では人形を安置した車楽船が蟹江川に浮かび美しい姿をみせる。朝祭の翌日にはヨシに災厄を託して流す神饌流しがおこなわれる。別名「百日祭り」と称され、長期にわたって地元住民の手で行事がおこなわれる。平成24年に重要無形民俗文化財に指定された。

### 3 跳ね上げ式の『御葎橋』

須成祭の当日だけウインチが設置され、祭船を通すために上げられる、可動橋。かつてこの付近にあった松の根元に、神饌流しの「おみよしさま」がよくひっかかったことにちなんで『御葎橋(みよしばし)』と名付けられた。



朝祭

### 4 『飾橋』

須成祭の時には、ここで待機する祭船に役者らが乗りこみ、船は天王橋に向けて出発、蟹江川をさかのぼる。この場所で巻藁舟の提灯を飾ることから『飾橋(かざりばし)』の名が付けられた。



宵祭

### 5 西尾張中央道歩道

眺望が楽しめるスポット。

### 6 フラワーガーデン戸谷

昭和34(1959)年9月の伊勢湾台風で甚大な被害を受けたこの地域。土壌の塩害によって農業の先行きも危ぶまれた頃、「鉢花生産なら」とのアイデアで1964年に創業。温室11棟、ビニールハウス2棟で栽培しており、11月は真っ赤に色づいたポインセチアの出荷最盛期。



### 7 佐屋川釣堀

海に面し、全域が海拔ゼロメートル。面積の1/4は河川で占められている蟹江町。かつては漁業も盛んで、鰻、穴子、ハゼ、シジミなどが捕れた。郷土料理には川魚を使ったものが多い。ヘラブナ釣りは今もメックで、町内には2ヶ所の釣堀がある。



### 8 足湯かにえの郷

愛知県下で唯一摂氏55度の天然温泉(含重曹硫化水素)が湧く尾張温泉観光ホテルの湯を活用し、源泉かけ流しの足湯が誕生。町の人々の憩いの場になっている。効能は、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、うちみ、くじき、疲労回復、健康増進など。



### 9 まちなか交流センター

出会いと交流、情報発信の場として開設された施設。作品展示、各種講座・教室や手作り野菜の販売などが行われ、「かに丸くん」グッズも扱っている。  
★ここで「カワラケツメイ茶」をいただけます。



### 10 甘強酒造

文久2(1862)年創業のみりんと酒造りの蔵。濃尾平野で収穫される豊富なもち米を原料に、水郷の町ならではの便利な舟運を利用して業績を伸ばした。今も伝統的な製造法を守り、品の良い甘さと風味の濃いみりんを提供している。みりん工場(明治初年築)、日本社事務所(昭和12年築)など4棟は、文化庁の「登録有形文化財建造物」として登録。  
★当日は、みりん、塩麴などの商品を販売します。



### 11 蟹江城址公園

永享年間(1429)頃、北条時任が城塞を築いたのが初めと言われ、戦国時代には伊勢湾水上路の拠点として重要な位置を占めた。天正12(158)年の蟹江合戦と翌年の大地震で壊滅。現在は城址の石碑と本丸井戸が残る。なお、平成24年11月11日に公園として整備され、歴史を語る憩いの場所となっている。



#### 蟹江合戦

長久手の戦いで徳川家康に大敗を喫した羽柴秀吉の雪辱戦で、尾張における制海権を確保し、織田信雄と家康の間に離反させるための戦いだった。九鬼水軍を伴い、蟹江城主の中に入城成功するよう思えた作戦だったが、徳川・織田連合軍の反撃により秀吉は敗退。これ以後、秀吉は武力をもって家康を屈服させることを断念し、謀略戦に転ずる。

### 12 歴史民俗資料館

蟹江合戦の資料や、食卓を中心に生活道具の再現展示、農業民具、須成祭の資料、伊勢湾台風以前まで盛んだった漁業に関する資料などを展示。特別展「須成祭」開催中。  
★ここで「蟹江の地場産業・今昔」のお話を聞くことができます。



#### 蟹江の刺繍

蟹江町では、明治以降刺繍製品の加工が盛んになり、昭和10年代には40軒以上の業者があった。当初は輸出向けの製品が主で、ワンポイント刺繍のハンカチが多くつくられ、刺繍業者は「ハンカチ屋」とも呼ばれていた。国内向けには半襟などの和装品のほか仏壇の打敷や祭りの山車幕や衣装を手がける業者もあった。しかし、需要の減少や機械化の波におされ、減少していった。

### 13 井川商店(漬物)

日本の食文化に欠かせない漬物を、国産の食材にこだわって野菜の旨味を引き出す昔ながらの製法で製造している。無添加・無着色の梅干や浅漬・めか漬けなど定番の漬物以外にもフルーツキムチなど新しい商品にも挑戦。  
★参加者に「小梅干」をプレゼント。商品販売もしています。

